



明海大学
編集・発行
企画広報課

Contents

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 宮田淳理事長が藍綬褒章を受章 | 5 保健医療学部登院式 |
| 2 『体育会会計研究部』始動 | 6 「MGOサポートプログラム」初の修了生誕生 |
| 3 柱谷監督が浦安市長を表敬訪問 | 7 関東地区教育懇談会 |
| 4 トルク大学の学生と教員が坂戸キャンパスを訪問 | 8 明海スポーツ |

宮田淳理事長が藍綬褒章を受章

◆◆ 教育振興と持続可能な大学経営への功績が評価 ◆◆



藍綬褒章の褒章状と章を手に、笑顔を見せる宮田淳理事長

令和8年春の褒章において、学校法人明海大学の宮田淳理事長(学校法人朝日大学理事長を兼任)が「藍綬褒章」を受章した。多年にわたり社会ニーズに即した人材育成や国際交流、地域社会との協働に尽力し、大学の持続的な経営基盤を確立してきた顕著な功績が高く評価されたものである。

宮田理事長は、本学の教授として教鞭を執りつつ、理事や常務理事などの要職を歴任し、2014年に理事長に就任。今日まで最高責任者として本学

の発展を牽引している。

本学における功績として、「ホスピタリティ・ツーリズム学部」の開設を主導し、12年連続就職率100%を達成する即戦力の人材育成体制を構築。また、歯科医療の高度化を見据え、2019年には東日本の私立大学で初となる4年制の歯科衛生士養成課程(保健医療学部)を新設し、国家試験合格率100%を達成した。さらに、建学の精神である「国際性の涵養」のもと、在日中国企業協会との包括連携協定締結や中国連絡事務所の開設など、時代

に左右されない国際交流を推進している。

■ 宮田淳 理事長コメント

このたびは藍綬褒章受章の栄に浴し、誠に光栄に存じます。また、明海大学の教育研究活動を温かく支えてくださった学生、保護者、卒業生、地域の皆様、そして教職員の皆様に心より御礼申し上げます。これまで、地域社会に貢献できる人材育成や国際交流に努めてまいりましたが、今回の受章は大学に関わるすべての皆様のこれまでの努力が評価されたものと受け止めております。今後も建学の精神の具現化を図り、地域をはじめ国際社会の発展に貢献できる有為な人材の育成に全力を尽くしてまいりますので、引き続き変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

多年にわたり教育界、私学の振興に尽力してきた宮田理事長の受章は、本学にとっても大きな誇りである。本学は今回の受章を大きな励みとし、建学の精神を未来へと継承しながら、今後も一層の教育・研究活動の充実と地域・国際社会への貢献に努めていく。

公認会計士をめざす『体育会会計研究部』が始動



ハイパー・アカウンティング・ハイスクール指定証交付の様子

本学は2027年4月、難関国家資格である公認会計士の合格をめざす「体育会会計研究部」を始動する。経済学部のカリキュラムと連携した学習プログラムを軸に、現役の公認会計士による個別指導体制を整備。学生が疑問点を随時相談できる環境を提供する。講師

陣には、2025年試験で11人の論論文式試験合格者を輩出した姉妹校・朝日大学の会計研究部で実績のあるプロフェッショナルが就任する。さらに、個別ブース形式の「専用学習室」の常時開放や、無償のWebサポートシステム導入により、集中して効率的に自習に取り

組める環境も整える。

また、高校在学中に日商簿記検定1級・2級などの高度な簿記資格を取得し、指定の入学試験に合格した学生を対象に、4年間の授業料が全額または半額免除となる手厚い奨学金制度を設け、学生のステップアップを強力に支援する。

なお、本組織の始動に先立ち、本学は一般社団法人日本商業教育振興会および朝日大学と連携し、高度な専門的職業会計人を育成する「ハイパー・アカウンティング・ハイスクール(HAH)」事業を2026年度から開始した。5月25日には、先進的な取り組みを行う全国27の商業高校と5団体を指定し、指定証の交付を行った。高大が連携して、社会の第一線で活躍できる人材の育成をめざす。

MEIKAI GLOBAL DAY開催

—キャンパスは地球だ 世界とつながり、未来をつくる1日—

「キャンパスは地球だ 世界とつながり、未来をつくる1日」をテーマに、国際交流イベント「MEIKAI GLOBAL DAY」が5月16日に開催された。今回が初開催となる本イベントは、学生、地域社会、各国大使館、企業が一堂に会し、文化交流や未来志向の対話を通じて国際未来社会に貢献できる人材の育成をめざして実施され、当日は地域の家族連れなど多くの来場者で賑わった。

会場では、各国大使館による文化体験ブースが立ち並ぶ「世界文化ストリート」、国際色豊かなローカルフードを提供する「グローバル・フードマーケット」、次世代を担う若者たちと国際未来について語り合う「グローバル・フューチャーフォーラム」、ダンスなどの

文化パフォーマンスを披露する「グローバル・ステージ」、サッカーを通じて交流を深める「サッカークリニック/フレンドリーマッチ」の5つのプログラムが実施された。

中でも注目を集めた「グローバル・フューチャーフォーラム」では、豊田順子客員教授の司会のもと、シンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング)のメダリストである小谷実可子さんをゲストに迎え、留学生2人を含む4人の学生が登壇した。「自分にとっての

挑戦」をテーマにしたトークセッションでは、学生たちが海外留学や課外活動での経験を交えながら、挑戦することの意義や将来の目標を語った。学生たちの熱意溢れる言葉に、多くの来場者が真剣に耳を傾けていた。

会場には終日、多様な文化との出会いや活発な対話があふれ、参加者それぞれが未来につながる新たな気づきや学びを得る一日となった。



グローバル・フューチャーフォーラムで話す学生と小谷実可子さん(右)

体育会サッカー部 柱谷監督が浦安市長を表敬訪問

5月20日、本学体育会サッカー部の柱谷哲二監督は、中畠裕学長、内苑孝美副学長とともに浦安市役所を訪れ、内田悦嗣浦安市長を表敬訪問した。

懇談では、本学サッカー部の活動状況や今後の強化方針について報告するとともに、スポーツを通じた地域活性化や青少年の健全育成、地域との連携のあり方などについて意見交換が行われた。

柱谷監督は、現役時代にヴェルディ川崎の中心選手として活躍し、Jリーグベストイレブンに3年連続で選出されるなど、数々の実績を残した。また、日本

代表キャプテンとしてチームを牽引し、日本代表として72試合に出場、1992年のAFCアジアカップ優勝にも貢献している。現在は、その豊富な経験と知見を活かし、本学サッカー部の指導に当たり、競技力の向上と人間形成を重視したチームづくりを進めている。

本学サッカー部は、関東大学サッカーリーグ1部昇格を目標に掲げて活動している。今後も地

域とのつながりを大切にしながら、学生スポーツの発展と地域社会への貢献に取り組んでいく。



(左から)中畠裕学長、柱谷哲二監督、内田悦嗣浦安市長、内苑孝美副学長

不動産学部が岩手県一戸町と地域連携プロジェクトが始動 総務省「ふるさとミライカレッジ」実証事業

総務省の実証事業「ふるさとミライカレッジ」の一環として、岩手県一戸町と本学不動産学部による地域連携プロジェクトが新たにスタートした。本事業は、高等教育機関と地方自治体が協働して地域課題の解決に挑む実践的な学びの場を創出し、地域活性化や関係人口の創出を目的としている。今回の連携は、不動産学部主催の「高校生が考える空き不動産活用コンテスト」において、一戸町にある岩手県立北桜高等学校の生徒が入選したことを契機に、同町が主体となり本格始動した。

本プロジェクトは、実践型授業「不動産と社会の課題演習I」を通じ、持続可能な「宿場町再生モデル」の確立をめざしており、具体的には、「宿場町の歴史資源の可視化と情報発信」「空き家を活用した宿場町機能の再構築」「高校と大学による宿場町再生協働プロジェクト」という3つのアクションを展開していく。

5月4日から6日に実施された第1回目の現地訪問では、地域の象徴である「萬代館」での説明や遺跡調査、空き家問題の現状確認を行ったほか、地

域住民との交流を深めた。学生たちは歴史資源の調査や現地での対話を通じ、教科書だけでは学べないリアルな課題解決のプロセスを肌で体験した。

今後は8月、9月、2月にも現地訪問を予定しており、さらに深掘りした調査と具体的な提案を行う。地域・行政・大学が一体となり、宿場町の未来に向けて継続的な取り組みを推進していく。



地域の象徴である「萬代館」の前にて記念撮影

高校生が考える空き不動産活用コンテスト開催

不動産学部主催「2026高校生が考える空き不動産活用コンテスト」が開催される。本コンテストでは、高校生が身近な空き家や空き地を題材に、地域活性化につながる斬新なアイデアを競う。

今年のテーマは「“まち”の拠点(BASE)と人の流れ(FLOW)」。全国の高校生から、地域の課題解決や魅力向上に貢献する提案を募り、最優秀賞には副賞としてiPadが贈られるなど、優れたアイデアを表彰する。

〈開催情報〉

○募集期間：2026年5月1日(金)～7月25日(土)

○最終審査：2026年8月30日(日)

※本学浦安キャンパスにて入選作品のプレゼンテーション審査を実施
詳細は不動産学部ホームページ(<https://meikai-re.jp/f-contest/>)

トゥルク大学(フィンランド)の学生と教員が坂戸キャンパスを訪問

トゥルク大学(フィンランド)の教員2人、学生2人の計4人が、交換研修プログラム(※)の一環として5月22日に坂戸キャンパスを訪問した。

一行は、研究活動や本学の国際交流の歴史と取り組みに関する講義を受講した。また、付属病院の見学では、最新の設備や診療環境を見学し、熱心に説明へ耳を傾ける姿が見られた。その後、トゥルク大学の教員による講演が行われ、続いて学生による発表では、フィンランドの教育制度や学生生活に

ついて紹介があり、参加者は両大学の共通点や相違点への理解を深めた。異なる環境で学ぶ学生同士が意見を交わし、新たな気づきや学びを得る機会にもなった。

さらに、坂英樹歯学部長によるグリーティングに続いて歓迎ランチパーティーを開催。学生や教職員が和やかな雰囲気の中で交流を深め、専門分野の学びだけでなく、異文化への理解も広げた。今回の訪問は、両大学の交流をさらに深める有意義な機会となった。

(※)交換研修プログラム: 本学歯学部は国際的な歯科医師を育成することを目的に、費用全額大学負担の海外研修制度を設けるとともに、海外姉妹校から交換研修生を受け入れている。



付属病院を見学するトゥルク大学の学生・教員

長坂新講師が「日本解剖学会奨励賞」を受賞



長坂講師(左)と天野修教授

3月24日、東京慈恵会医科大学で開催された第131回日本解剖学会総会・全国学術集会において、本学歯学部形態機能成育学講座組織学分野の

長坂新講師が「日本解剖学会奨励賞」を受賞した。

受賞の対象となった演題は「口蓋突起挙上における細胞形態および動態の3次元解析」である。同賞は、解剖学の発展に寄与する優れた研究成果を上げ、今後の活躍が期待される新進気鋭の研究者に贈られるものである。長坂講師による新規性の高い研究アプローチとその成果が高く評価される形となった。

受賞にあたり、長坂講師は「名誉ある

賞を賜り光栄に存じます。また、これまでご指導くださった諸先生方、共同研究者の皆様にご感謝申し上げます。今後も奨励賞受賞者としての自覚を持ち、解剖学および形態学の発展に貢献できるよう尽力していきたいと考えております」と今後の抱負を語った。今回の受賞は、本学における研究水準の高さを示すとともに、今後の歯科医学をはじめ、解剖学・発生学分野の発展に大きく貢献するものとして期待が寄せられている。

歯学部成績優秀者表彰

5月27日と29日に坂戸キャンパスにて「2026年度歯学部学業成績優秀者表彰式」が行われた。前年度の学

業成績が優秀で、心身ともに健康で品行方正な学生が対象となり、各学年の上位10人(2年生は入学者上位10%)が表彰された。今年度は合計55人が選出され、坂英樹歯学部長から表彰楯とともに激励の言葉が贈られた。本学では、「広い視野・豊かな人間性・国際性」の3つを兼ね備えた、常に変化し続ける社会状況に対応可能な「新時代の歯科医師」の育成に

力を注いでいる。こうした表彰を通じて、学業に真摯に取り組む姿勢を称え、学生の成長を後押ししている。式は、受賞者の努力と成果をたたえる晴れやかなものとなった。

受賞した佐藤浩輝さん(歯学部6年)は、「この度は日々の努力を評価していただき、大変光栄に思います。支えてくださった先生方や友人など、多くの学校関係者の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、残りの学生生活も気を引き締め、勉学に励みたいと思います」と受賞の喜びと今後の目標を語った。



6年生の受賞者たち

**保健医療学部
登院式**

臨床臨地実習開始に向け医療人としての気持ち新たに

5月28日、浦安キャンパスにおいて「保健医療学部2026年度臨床臨地実習登院式」が開催された。この式典は、これから臨床臨地実習に臨む保健医療学部口腔保健学科の3年生が、歯科衛生士学生としての心構えと決意を新たにすることを目的に行うもの。初めての臨床着に袖を通した学生たちは、緊張の面持ちで式に参加した。

式の冒頭では、金子潤保健医療学部長が式辞を述べ、続いて林丈一朗明海

大学病院長から学生たちへ激励の言葉が贈られた。その後、金子学部長から登院許可が与えられると、学生たちは教員から一人ひとりのキャンドルに灯火を受け、代表の吉田羽夏さんに続いて全員で誓いの言葉を唱和した。会場は厳粛な雰囲気に入れ、学生たちは医療人としての自覚と責任を胸に刻んだ。

学年主任の石川由美教授からは「これまでの学びを活かして、実りの多い実習にしてください。教科書どおりに

いかなことも皆さんの学びになります。誓いの言葉を胸に、医療従事者の原点を振り返ってみてください」とメッセージが贈られた。



キャンドルに灯火を受ける保健医療学部生

「保健医療学部ホワイトコートセレモニー」医療人としての自覚と責任感を

保健医療学部口腔保健学科1年生を対象とした「ホワイトコートセレモニー（白衣授与式）」が6月21日に浦安キャンパスで開催された。ホワイトコートセレ



白衣に袖を通す学生たち

モニーとは学生に白衣を授与することによって医療に携わる自覚を促す式典で、保健医療学部では開設以来毎年行なっている。

セレモニーでは、初めに金子潤学部長からの告辞、中村陸夫歯学部同窓会長および野津友厚浦安キャンパス同窓会副会長からの祝辞があり、その後、学生全員が登壇し、教員から白衣を受け取って袖を通した。

白衣は歯学部同窓会および浦安キャンパス同窓会により寄贈されたもの

で、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオス(Aesculapius)が持つ杖をモチーフとした保健医療学部のエンブレムをあしらひ、右袖には大学名の刺繍が施されている。

学生代表の桂野ひらりさんからは「自覚と責任感を持ち、知識と技術、医療人としての感性を磨き、日々学び続けます。今日の日の思いを深く胸に刻み、仲間とともに成長し歯科衛生士への道を歩み続けることを誓います」と力強い宣誓があった。

英米語学科海外留学・研修報告会 ～海外留学・研修の成果を発表～

2025年度の英米語学科海外留学・研修報告会が4月に実施され、アルバータ大学(カナダ)に留学した学生1人と、シーキューユニバーシティ(オーストラリア)での研修に参加した学生7人が、それぞれの学びや経験について発表した。

学生たちは、現地での経験をもとに、文化や価値観、言語の違いから得た学びや気づきを報告。学生からは、「100点の英語をめざすのではなく、自分のできる100%で伝えようとするのが大切。積

極的にコミュニケーションを重ねることで成長につながることを実感した」と海外留学や研修での気づきが語られた。

発表後には学科教員による質疑応答やフィードバックも行われ、海外留学や研修で得た経験を振り返る機会となるとともに、参加学生同士が互いの学びや気づきを共有し、多様な価値観への理解を深める場となった。本学では、海外協定校との交流や充実した海外留学・研修制度を通じて、学生の国際的な視野を広げる機会を提供している。

＜留学・研修期間＞

アルバータ大学(カナダ)

2025年4月～12月(9か月間)

シーキューユニバーシティ(オーストラリア)

2026年2月7日～28日(22日間)



アルバータ大学(カナダ)での留学経験を発表する学生

「MGO留学生サポートプログラム」初の修了生が誕生

文部科学省認定の「MGO留学生サポートプログラム」において、初の修了生が誕生し、6人の留学生に修了証明書が交付された。

本プログラムは、留学生の社会的・職業的自立を支援することを目的に、日本語教育、キャリア教育、インターンシップを一体的に実施する教育プログラムである。修了生は、日本語能力試験N1への合格、実質14日間以上のインターンシップへの参加、日本独自の雇用環境や文

化・慣習の理解など、厳しい修了要件をすべて満たした。

修了生からは、「授業以外の講座もあり大変だったが、先生方の手厚い支援を受けることができ、とても良かった」との声が寄せられた。また、プログラムを通じて日本語能力やキャリア形成に関する知識を深めるだけでなく、主体性やコミュニケーション力などの向上も見られた。

修了生は今後、専属の就職活動専門コーチによる業界・企業研究、エント

リースート添削、面接対策などの支援を受けながら、日本企業への就職と希望進路の実現をめざしていく。



修了証明書を手にする留学生たち

学内企業 セミナー開催

未来を拓くマッチング、充実のキャリアサポート

5月27日・28日の2日間、浦安キャンパスにて、学部4年生を対象とした学内企



採用担当者の話を熱心に聞く学生たち

業セミナーが実施された。

本イベントは、多彩な業界の採用担当者から事業内容や求人詳細を対面で直接得られる絶好の機会。例年、この出合いをきっかけに内定を勝ち取る学生も多い。今年も本学学生の採用に意欲的な32社の企業が集結し、商社やIT、小売、福祉、不動産など多

岐にわたる業界のブースが並んだ。

会場では、学生たちが熱心に質問し、メモを取る姿が見られた。参加者からは「社風や求める人材像を直接伺うことができ、今後の就職活動に向けて大きな刺激になった」といった声が上がった。

本学では1年次からの体系的なキャリア教育を通じ、学生の確かな職業観の育成に注力している。今後も学生一人ひとりの希望進路の実現に向け、大学を挙げて万全のサポート体制で伴走支援を続けていく。

インターンシップで得た経験と成長を報告

企業などで就業体験を行う春季インターンシップの報告会が4月14日から30日にかけて、浦安キャンパスで実施された。報告会では、学生がインターンシップ先で経験した業務内容や学び、今後の課題などについて発表。学部やキャリアサポートセンターの教員らが参加し、発表後には質疑応答やフィードバックが行われ、学生にとって自身の経験を改めて振り返る機会となった。

外国語学部の学生からは、リポート

ホテルでのインターンシップについて、「お客様に喜ばれるサービスを提供するために、とっさの判断や行動が求められる難しさを感じた。一方で、外国人のお客様に英語で対応し、自分の学びが活かされたことにやりがいを感じた」との報告があった。

学生たちはインターンシップを通じて、実際に社会で働くことの責任ややりがいを体感し、自身の将来像や今後身につけるべき力について理解を深めてい

た。本学では、こうした実社会とつながる学びの機会を提供し、学生の主体的なキャリア形成を支援している。



インターンシップ報告会の様子

浦安キャンパス教育後援会 関東地区教育懇談会を開催

6月13日、浦安キャンパス教育後援会主催の関東地区教育懇談会が開催され、1・4年生の保護者が出席し

た。本懇談会は、保護者に大学の諸支援体制や学生の成績をはじめとする大学生活の様子を知ってもらう機会となっている。

全体会では、高原将之教育後援会会長の挨拶に続き、二宮秀生副学長・キャリアサポートセンター長から「本学は建学の精神のもと『ホスピタリティ』と『なりたいじぶん』を大切にしている。その実現に向けて様々な機会を用意しているが、それらを活用し、自ら成長するのは

学生本人である。ぜひ主体的に大学を活用し、自身の可能性を広げてほしい」との挨拶があった。その後、キャリアサポートセンター長として、社会の変化やキャリア形成の考え方に触れながら、本学のキャリア教育および就職支援の取り組みについて説明した。

続く個別面談会では、学科担当教員が成績や大学生生活の相談に応じた。保護者からは「先生から直接お話が聞けて安心した」「インターンシップや資格取得の重要性がわかったので、早い段階から準備をさせたい」などの声が聞かれ、非常に有意義な機会となった。



個別面談会の様子

オープンキャンパス実施報告

本学浦安キャンパスにて4月から6月にかけて、高校生や受験生を対象としたオープンキャンパスが毎月1回開催された。新年度がスタートし、志望校選びや進路検討を本格化する中、多くの高校生や保護者が来学した。期間中は歯学部を含む全学部が参加。4月には自分の興味から学部を探る「学部選びガイド」、5月は実際の大学の授業を体験できる「体験授業」、そして6月は受験生必見の「総合型選抜(AO)対策講座」といった時期に応じた具体

的な限定プログラムが実施され、いずれも高い関心を集めた。また、各学科の教員や在学生と直接話せる「学科魅力発見コーナー」や、学生スタッフが案内する「キャンパスツアー」、学生食堂「マリーンズ」での学食体験、吹奏楽部による臨場感あふれる「MEIKAI課外活動LIVE!」なども

好評を博した。参加した高校生からは「大学の雰囲気がよくわかり、受験へのモチベーションが上がった」との声が寄せられ、夏以降も受験生に寄り添った有意義なイベントを継続していく。



オープニングガイダンスで司会を務める学生

Open Campus 2026

浦安キャンパス

オープンキャンパス10:00~14:30

要予約

外国語／経済／不動産／ホスピタリティ・ツーリズム／保健医療学部／
大学院（応用言語学研究科・経済学研究科・不動産学研究科）

7月12日(日)、7月26日(日)

8月1日(土)、8月16日(日)、8月30日(日)

お問い合わせ／企画広報課 TEL 047-355-1101

坂戸キャンパス 歯学部

オープンキャンパス10:30~

要予約

7月26日(日)、8月23日(日)、9月27日(日)

お問い合わせ／歯学部入試事務局

TEL 049-279-2852

詳細は本学公式HPをご覧ください。

<https://www.meikai.ac.jp>

※内容が変更となる可能性があります。



体育会陸上競技部

関東インカレで躍進！男子2部総合5位を獲得

体育会陸上競技部は、5月21日から24日にかけてカンセキスタジアムとちぎで開催された第105回関東学生陸上競技対校選手権大会（関東インカレ）に出場し、男子2部総合5位、男子2部フィールド総合3位の好成績を収めた。男子2部総合では55点を獲得し、昨年度の7位から順位を上げるとともに、得点も40点から大きく伸ばした。また、男子2部フィールド総合では昨年度に続き3位となり、投てき

種目を中心に高い競技力を発揮した。

個人種目では、110mハードルで佐藤心選手（経済学科3年／神奈川工業高等学校出身）が2位、砲丸投で松岡義人選手（経済学科4年／星槎国際高等学校出身）が2位、円盤投で橋本笙汰選手（経済学科4年／武相高等学校出身）が3位に入賞した。さらに、棒高跳、やり投、ハンマー投などでも多くの選手が得点を重ね、11名の入賞者がチームの

躍進を支えた。関東1部昇格を目標に挑戦を続ける陸上競技部の今後のさらなる活躍が期待される。

《 関東インカレ男子2部入賞者一覧 》

- ◆110mハードル
佐藤 心(経済学科3年) 14秒38 (+0.6) 2位
- ◆棒高跳
末木 裕大(経済学科3年) 4m83 4位
- ◆砲丸投
松岡 義人(経済学科4年) 15m58 2位
橋本 大輝(経済学科2年) 14m23 6位
鈴木 皓大(経済学科4年) 15m25 7位
- ◆円盤投
橋本 笙汰(経済学科4年) 45m89 3位
山田 陸翔(経済学科2年) 42m69 4位
花岡 航大(経済学科2年) 40m81 6位
- ◆やり投
松田 涼汰(経済学科4年) 62m11 4位
- ◆ハンマー投
中居 大翔(経済学科2年) 56m10 5位
西本 勇希(経済学科3年) 54m76 7位

(大会成績)
男子2部総合 5位 (55点)
男子2部フィールド総合 3位 (48点)



陸上競技部の部員たち

体育会ヨット部

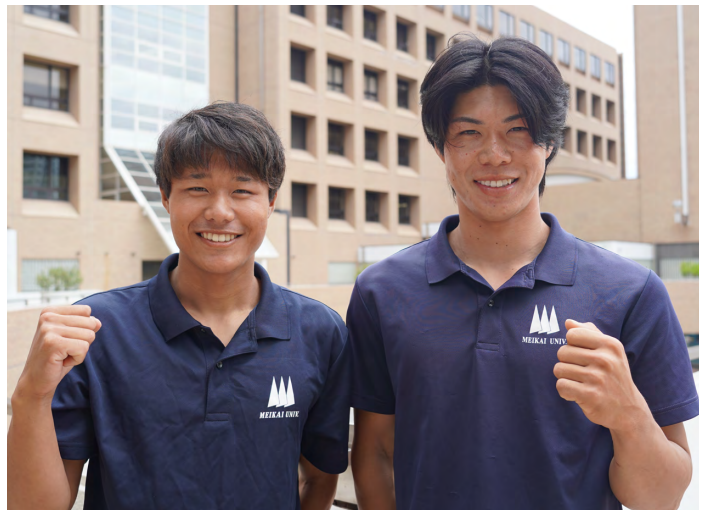
470級世界選手権大会出場権を獲得！

5月21日から24日にかけて神奈川県藤沢市の江の島ヨットハーバーで開催された「江の島ウィーク」において、本学体育会ヨット部の田畑武佐士選手（経済学科4年／熱海高等学校出身）が同志社大学の選手とのペアでMIXクラス日本2位、上原慎平選手（英米語学科3年／和歌山工業高等学校出身）が近畿大学の選手とのペアで同9位に入る活躍を見せた。

本大会は国内外のトップセーラーが集う国内有数のヨットレースであり、世界選手権出場をめざす選手にとって重要な大会である。両選手は変化の激しい海面コンディションの中でも高い技術力を発揮し、好成績を収めた。

この結果、両選手は470級世界選手権大会の出場権を獲得した。470級世界選手権大会は国際セーリング連盟（World Sailing）が管轄する470級ヨットの最高峰の大会で、2026年大会は8月10日から17日まで江の島ヨットハーバーで開催される。山田真監督は「世界トップレベルの

選手たちとのレースを存分に楽しみ、自分たちの力を発揮してほしい」と期待を寄せた。



上原選手(左)と田畑選手(右)